

## だから、裁判です

私たちはJR九州の大分市内の8駅無人化に反対して裁判を起こしました。誰もが同じように安心して乗ることができるJRになってもらいたいからです。

JR（日本旅客鉄道）はもともと国有鉄道（国鉄）でした。地域の交通の要であり、企業の一方的な都合によって、公共交通としての鉄道のあり方を変更し切り捨てることは許されません。障がいがある人や高齢者など支えが必要なすべての人に対して公共交通にふさわしい対応をしてもらいたいという願いを込めた裁判です。

## みんなが困る駅無人化

駅員さんがいなくなることによって、支えが必要な人は事前の予約（連絡）が求められるようになりました。多くの方が、「駅員さんの笑顔ややさしい声かけにホッとしている人がいることも知ってほしい」「頼りになる駅員さんがいるからこそ安心して利用できます」「駅員さんにどれほど救われたことか」と訴えています。しかしJR九州は無人化の方針を変えようとしません。



## あなたの声大切です

私たちは、最後の手段として裁判に訴えました。「事前予約は社会的な障がいをつくる」「時間の自由がきかなくなる」「ホームから転落したときにどうやって助けてくれるのか」などの訴えは、憲法や法律によって受けとめてもらえると信じるからです。「無人化しても、より便利、より安全になる」と言ってきたJR九州の主張が、障がいのある人にとって本当のことなのかどうか。開かれた場で、だれもが安心して利用できる公共交通について多くの人たちと一緒に考え、実現していく第一歩にしたいと考えます。

駅の無人化をやめて  
地域とつながるJR駅をめざしましょう！



JR駅無人化反対訴訟を支援する会

駅員さんの笑顔ややさしい声かけにホッとしている人がいることも知ってほしいと思います。

頼りになる駅員さんがいるからこそ安心して利用できます。

駅員さんにどれほど救われたことか。無人化はもう電車に乗らないでと言われているようだ。

障がいに対応できるのは人間しかいない。

無人化になれば予約が必要になる。急な変更もきかず、時間に縛られる。

電話予約しないと乗せてもらえないシステムを敷いた事自体が差別にあたると思います。障がいのある人だけに、特別な、精神的にも、身体的にも不便な条件を強いて利用しづらくしています。

視覚障がい者は転落死亡事故が多発している。落ちたらどうすればいいかわからない。カメラで監視していても気づかなかつたり間に合わないのではないかと不安がある。

障がいがある人に予約を求めることは差別だと感じる。

転落事故はこれまで何件も起きています。そんな時、駅員さんがいるのではないのでは天国と地獄の違いです。事が起きてからでは遅いのです。

# 困っています 駅の無人化

## 障がいがある人たちの声が届きません

車いす利用者や視覚障がい者だけではなく、やっと歩いている人も怖さを感じている。言葉をはっきり言えない人、字が書けない人、いろんな障がいの人が利用したくても利用できないことをわかってほしい。そういう人への配慮をこれまで担ってくれた駅員さんがいなくなると利用できなくなる。合理的配慮をしないとますますJR離れが進むと思います。

知的障がいがあり多動の子どもがいるがホームから落ちる不安で駅を利用しにくい。

電話予約といってもその電話すら人に頼らなければならない人がいることも考えてほしい。

無人化されたら怖いから利用できないのに、「無人化されて何か問題があったのか」と問いかけるのは、事故が起きないと動かないということと同じです。ケガをしたり、死んだりしないと動かないのでしょうか。

## 地域の人たちの声も寄せられました。

中小の私鉄やバスが経営に苦労しているなか、国の資産を元手に経営するJRがこんな暴挙。許せない気持ちでいっぱいです。

民営化は単にもうければよいというために行われたものではないはず。株主の顔色要望だけを聞いていたのでは社会からそっぽを向けられます。

**JR駅の無人化に反対する裁判と署名にご協力をお願いします。**

JR駅無人化反対訴訟を支援する会

だれもが安心して暮らせる大分県をつくる会・障害者の生活と権利を守る大分県連絡協議会・大分県障がいフォーラム実行委員会  
連絡先 大分市都町2丁目7-4-303(在宅支援ネット内) 電話097-513-2313